

社会科学の基礎 A		教授 丸山 高行	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200107

1. 授業のねらい・概要

この科目は、極めて広い学問領域である「社会科学」について、エッセンスを効率よく学ぶことを目標とする。また、単なる各種資格試験対策の知識吸収にとどまらず、これから学生諸君が立派な社会人として世界各国で活躍するための、基礎固めができることを目指す。まず「社会科学の基礎 A」では、日本の政治・法律・経済といった基本分野に焦点を当てる。

2. 授業の進め方

基本的には、配布資料や参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。また、毎回、授業の開始時に、その日の授業で学習する内容に関して 2 問程度練習問題を提示し、集中して考える時間を設ける。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 株価は何によって決まるのか
2. 戦後から現代までの日本の政治	10. 景気を判断する資料の見方
3. 日本の統治システムの変遷	11. 為替レートと景気・株価との関係
4. 大日本帝国憲法と天皇制	12. 短期金利と長期金利の関係
5. 日本国憲法の重要条文	13. 収益率と割引現在価値の計算
6. 自由民権運動と議会制民主主義	14. 日本語の文章力を上げる方法
7. 経済について詳しくなるコソ	15. 全体のまとめ（「社会科学の基礎 B」へ向けての準備）
8. 日経平均株価の長期的推移	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業終了後、授業中に提示された練習問題を中心に、授業の内容を自分なりに整理してまとめておくこと。こうした復習のための準備学修には、最低 1 時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日本語の文章力を上げるためにレポートの提出を求めるが、提出者には添削してフィードバックする。

試験については終了後、各自に模範解答を配布するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

社会科学のうち、特に政治・法律・経済関係の基礎知識が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の企業活動や決算発表、株式・債券市場の動きなど、ビジネスと密接に関連する話題にも適宜触れるので、社会科学の諸分野について、さらに勉強しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

レポートを含めた授業への取り組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用しないが、授業の進捗に合わせて、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

学生諸君の理解度や関心度合を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。